

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. 新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善（「」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）

(1) 新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。

ア 校内の『授業力改善委員会』による持続的な授業改善を推進する。

※ 「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和5年度までに80%以上にする（H29 69%、H30 76%、R1 77%、R2 78%）。

イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。

※ 令和5年度までに95%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施できるようにする（H29 59%、H30 80%、R1 81%、R2 93%）。

※ 令和5年度までに95%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（H29 54%、H30 81%、R1 83%、R2 91%）。

ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。

※ 「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を令和5年度に55%以上にする（H29年度45%、H30年度47%、R1年度49%、R2年度53%）。

※ 「授業の予習、復習は『できていない』」を令和5年度に5%以下にする（H29 12%、H30 10%、R1 9%、R2 8%）。

エ 新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶う新たなカリキュラムを準備し、令和4年度から学年進行で実施できるようにする。

2. 新型コロナウイルス併存下でのICTを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、GIGAスクール構想への対応

(1) ICT機能を活用して、学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。

ア 校内に設置した「ICT、GIGAスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等の学習補完を充実する。

イ GIGAスクール構想における1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのICT活用推進を図る。

3. コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現

(1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。

ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認め合い共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。

※ 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和5年度に90%以上にする（H30 82%、R1 84%、R2 87%）。

※ 「牧野高校は人権教育に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和5年度に90%以上にする（H30 82%、R1 87%、R2 86%）。

(2) コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。

ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直しをしていく。

※ 体育祭や文化祭、修学旅行等について、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものになるよう必要な見直しや修正、変更を検討、実施する。

※ 「部活動は活発である」への生徒の肯定的回答を令和5年度まで90%以上で維持する（H29 94%、H30 94%、R1 94%、R2 93%）。

※ 「部活動と学習の両立ができていく」の生徒肯定回答を令和5年度には75%以上をめざす（H29 64%、H30 62%、R1 69%、R2 73%）。

イ 生徒に、コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。

※ コロナ併存社会で可能な、進路講演会やイベントを行うとともに、国公立大学や同志社大学出身の外部講師による講演等の計画、実施を模索する。

※ 「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の肯定回答を令和5年度85%にする（H29 77%、H30 81%、R1 78%、R2 80%）。

※ 「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定回答を85%以上で維持する（H29 80%、H30 85%、R1 86%、R2 89%）。

ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。

※ 学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。

エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。

※ 進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を測る。

※ 令和5年度までに大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（H29年度69%、H30年度76%、R1年度77%、R2年度70%）にする
とともに、そのうち5教科型の出願者を50%以上（H29年度35%、H30年度41%、R1年度52%、R2年度32%）にすることをめざす。

※ 令和5年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の30%以上（H29年度16%（56名/358名）、H30年度20%（78名/395名）、R1年度18%（63名/354名）、R2年度12%（43名/353名））にして、現役合格者数を卒業見込み者数の10%以上（H29年度6%（23名/358名）、H30年度5%（19名/395名）、R1年度4%（13名/354名）、R2年度2%（8名/353名））をめざす。

※ 令和5年度までに、国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業見込み者数の50%以上になるようにする。（H30年度48%（188名/395名）、R1年度49%（175名/354名）、R2年度60%（211名/353名））

4. 新型コロナウイルス併存下における教職員研修での教職員の資質の向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減

(1) 新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。

ア 新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。

※ 「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率80%をめざす（H30 69%、R1 67%、R2 72%）。

※ 「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答80%以上をめざす（H30年度80%、R1年度76%、R2年度78%）。

(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減

ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月 実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で69%⇒76%⇒77%⇒78%⇒84%となり、前年度より6ポイント改善して5年間では15ポイント改善した。このうち「よくあてはまる」の回答は、最近5年間で9%⇒15%⇒16%⇒19%⇒24%となり、前年度より5ポイント改善、5年間で15ポイント改善した。4年前に普通教室と理科教室の全32教室に電子黒板機能付超短焦点プロジェクターが設置され、一昨年度に展開教室等3教室にも追加設置できてICT活用環境が整い、本年8月に生徒1人1台端末も配布され、生徒がわかりやすい授業が増えていると考えられる。 ・「ICT機器等を活用した授業を行っている」に肯定的な回答をした教員は、最近5年間で59%⇒80%⇒81%⇒93%⇒92%となり、5年間では33ポイント増加した。このうち「よくあてはまる」の回答が、最近5年間で18%⇒31%⇒36%⇒43%⇒62%となっていて、前年度より19ポイント増加、5年間では44ポイントの増加となった。昨年度まで2年連続して大阪府教育センターの「パッケージ研修」を活用し研究授業や研究協議を行い、今年度は生徒1人1台端末の配布で活用法等について校内で繰り返し研修会を行ったことで、多くの教員が習得し、ICTを活用授業をする教員が増えたと考えられる。 ・「ICT機器やネットワークを利用した授業が多い」への生徒の肯定的回答も最近5年間で54%⇒81%⇒83%⇒91%⇒91%となり、5年間で37ポイント増加した。このうち「よくあてはまる」の回答は、最近5年間で11%⇒29%⇒36%⇒47%⇒53%となり、前年度より6ポイント、5年間では42ポイント増加した。本校のICT環境充実の成果が出ていると考えられる。 ・「授業の予習、復習が『できている』、『まずできている』」を合計した生徒の回答は、45%⇒47%⇒49%⇒53%⇒56%と前年度より3ポイント、5年間で11ポイント増加する一方、『できていない』と回答する生徒は12%⇒10%⇒9%⇒8%⇒9%と5年間で3ポイントの減少だった。注視を継続したい。 ・「授業だけで理解できない場合等の指導が適切に行われている」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で56%⇒56%⇒61%⇒64%⇒72%となり、前年度より8ポイント改善（1年生59%⇒78%、2年生67%⇒69%、3年生67%⇒73%）、5年間で16ポイント改善した。新型コロナウイルス感染症対応で、昨年度に導入したグループウェアやオンライン予備校サービスを利用して、個別質問や授業補完がしやすい環境になったことに加えて、コロナ禍で教員の意識の変化と尽力があったものと考えられる。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校は楽しい」への生徒の肯定的回答は、91%（1年生94%、2年生92%、3年生89%）で、前年度比2ポイント改善した。新型コロナウイルス感染症で断続的な緊急事態宣言が出て体育祭はやむなく中止したが、文化祭を平日無観客で開催、修学旅行も緊急事態宣言明け直後に実施するなど外部環境変化に対応しながら学校運営を行い、引き続き高水準を維持している。 ・「牧野高校の新型コロナウイルス感染症の対応は適切であった」の生徒の肯定的回答は76%（1年生87%、2年生75%、3年生64%）で、「文化祭の実施方法は適切であった」の生徒の肯定的回答は89%（1年生95%、2年生94%、3年生80%）であった。全体に1年生の満足度が高い。 ・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で80%⇒82%⇒83%⇒84%⇒87%となり、このうち「よくあてはまる」は18%⇒27%⇒25%⇒32%⇒41%となった。 ・「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応できている」への教員の肯定的回答は、最近5年間で68%⇒73%⇒62%⇒77%⇒90%となり大きく改善した。1年に2回の生徒に行う「いじめに関するアンケート」などを使いながら、引き続きしっかりとした取り組みをしていく。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」の生徒の肯定的回答は、最近5年間で72%⇒80%⇒76%⇒78%⇒82%となり10ポイント上昇し、このうち「よくあてはまる」は20%⇒30%⇒27%⇒32%⇒37%と17ポイントの上昇となった。 ・「生徒が悩み事を相談できる教育相談体制が整備されている」への教員の肯定的回答は、最近5年間で76%⇒75%⇒63%⇒68%⇒90%と改善した。こちらも学校として大事にしていきたい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は最近5年間で77%⇒81%⇒78%⇒80%⇒85%に、うち「よくあてはまる」は19%⇒27%⇒27%⇒31%⇒34%となった。「生徒の10年20年先を見据えた進路指導を行っている」の教員の肯定的回答は最近5年間で43%⇒63%⇒45%⇒42%⇒70%となった。進路指導を大切にしたい。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で80%⇒85%⇒86%⇒89%⇒90%に、うち「よくあてはまる」は26%⇒32%⇒34%⇒41%⇒49%と大きく増加した。進路指導部や学年団の教員とともに、学校として多くの機会を持ち、しっかり取り組んでいきたい。 ・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への生徒の肯定的回答は最近5年間で75%⇒72%⇒72%⇒75%⇒82%（1年生単独では94%）、うち「よくあてはまる」は24%⇒18%⇒21%⇒25%⇒33%（1年生単独は46%）であった。新型コロナ禍の中でも、多様な機会の提供に努めたい。 ・「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は最近5年間で94%⇒94%⇒94%⇒93%⇒94%、うち「よくあてはまる」は59%⇒61%⇒60%⇒63%⇒66%で増加している。新型コロナ禍の影響下でも高水準を維持している。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答は、最近5年間で64%⇒62%⇒69%⇒73%⇒77%となり、このうち「よくあてはまる」は19%⇒20%⇒22%⇒29%⇒33%と、今年度も伸長することとなった。同じ設問への保護者の肯定的回答は、最近5年間で64%⇒62%⇒65%⇒64%⇒69%で、このうち「よくあてはまる」は24%⇒22%⇒22%⇒22%⇒25%であった。一昨年度に新たな部活動指針の導入による部活時間の見直しを実施しており、今年度は新型コロナウイルス感染症による制約も多くあったが、各部活動はそれぞれ好成績も収めた。生徒や保護者が学習との両立に困難を感じないように、効率的で有効な部活動の時間としていきたい。 	<p>【第1回】令和3年7月9日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電子黒板は全教室に設置され、教員は皆さん活用しているのか？ ⇒現在は特別教室を含め、35教室に設置している。年齢の若い先生を中心に、経験の豊富な先生も含めて繰り返し研修なども行い9割以上の先生が活用している。 ○パッケージ研修にある、ウェアブルカメラとはどのように活用されたのか？ ⇒授業改善にあたり、生徒の授業評価の高い先生にカメラを装着して動画を撮り編集してコメントを入れてもらい、当該教員の目線の動きにより授業で意図したことを確認する等、研究授業で他の教員と共有して話し合いをする研修を行った。 ○牧野高校はICT環境が進んでいる。ウェアブルカメラの活用は対話的に授業ができていくかの確認に良い。講義式になると教員の目線が動かない傾向になる。「再生刺激法」で事後確認が出来、授業改善に効果的な取組みである。 ○令和3年度学校経営計画は、昨年度から変更するところは大胆に変更されている。「選択と集中をせざるを得ない」姿勢が色濃く出ている。計画の中に「コロナ」の文言が19回、「ICT」「GIGA」が17回出てくるなど学校経営の指針が明確に表れている。 ○私立大学は先が不透明な中、各大学が定員の確保に苦労している2年間であった。今年度も同様の傾向になるのではないかと。関関同立をはじめとして進学実績では良い結果が出されている。 ○生徒の希望進路を国公立に向かわせるための仕掛けはあるのか？ ⇒国公立に向かわせることだけが目標になっているのではない。安易に進路を決めるのではなく、4年、10年、20年後を見据え、「3年生の最後まで頑張ろう」少なくとも「1月の共通テストまで頑張りたい」という意図で声をかけている。仕掛けというと、各学年様々な取り組みをしているが、3年生では1年生の時に週末課題として課題を与えた。2年生は「朝学」をしている。昨年度からスタディサプリの活用を始めた。これはオンライン予備校のようなもので、5教科で苦手教科を作らないようにしてもらいたいと思っている。5教科全て幅広く学べるのは高校が最後になるので社会に出てから必要となる教養の基礎を身に付けさせたい。 ○感心している。特にICT機器に関して。生徒もしっかりと受け入れている。弁護士界も企業もICT化が進んで、人材も必要としており、国もデジタル化を進めている。生徒も社会に出れば必要になることから、今の段階からこういう授業を積極的に取り組んでいるのは良いこと。また「牧野高校は楽しい」と答える生徒が多いことは素晴らしい。クラブも含めて伝統を守ってほしい。キャリア教育にも肯定的な意見が多い。今日は嬉しく感じた。 ○昨年度からコロナで大変な中、きっちりと成果を出している。先生方と生徒の努力があつてのことであるが、どうすればそのような頑張りや維持できるのか。生徒は一人の時間も多かつたはずだが、塾や予備校にはどの程度行っているのか？ ⇒統計を取っていないが、高校3年生になるとかなり行っているのではないかと。中学生の時に通っていた塾や自習室の利用で通っていた塾に行く傾向にある印象だ。塾や予備校に行かなくても、スタディサプリーで予備校と同じかそれ以上の授業を動画で見ることが出来るシステムになっている。大阪ではスタディサプリーを取り入れている学校は本校を含め数校であるが、ある県では昨年度から県教委がまとめて全県立高校180校にスタディサプリーの導入をしている。本校も昨年度から活用している。近隣の府県を見ても進学に熱心な学校は取り入れている。大学受験は全国レベルで競争する必要があることから全国レベルの設備が必要であると考えている。今年度は校内の自習室を整えているところである。 ○中高で校種が異なるが、コロナ禍において丁寧な計画をされているので本校にも参考にさせていただく。地元の中学生にとって牧野高校は憧れて通いたい生徒が多く、また行かせたいと考えている保護者が多い。GIGAスクール構想は枚方市では導入が早くいろいろと大変だったが、1年早く取り掛かっていることもあり、近くでもあるので情報提供できるようなことがあれば、協力させていただく。 ○塾に通う生徒は多いように聞いている。学校では、図書室が朝早くから自習室として開放してもらおうなど体制作りがありがたい。生徒は学校が楽しいと言っている。PTAの役員のなかでも親子2世代で牧野高校生という人が多い。コロナの影響で生徒たちが戸惑うことなどはなかったのか？ ⇒感染者が多く出ると大変だ。昨年度のように夏休みが1週間だけでは生徒が混乱すると思うが、本校ではコロナに係る学校休業をできるだけ短くできるように努めている。4月以降で感染者は2度出たが、学校休業は1日だけで済んでいる。 ○コロナやGIGA構想など大変だが、先生方の働き方改革に関して超過勤務が保護者として気になるところ。少なく出来れば良いと感じており、PTAとして新しい体制が出来たので、何かご支援できることがあればどんどん協力したい。 ○一番ショックだったのが現在の部活動入部率の低いことである。部活動に入っていない子どもたちの時間やエネルギーがどこに使われるかが問題である。クラブに入る機会を設けていただければ興味を示す生徒もいると考えられる。もう一つは、来年度から学習指導要領の変更に伴い、教育方法やICTをはじめとして大きく変わっていくところであるが、文科省が求める観点別評価が徹底されてくるので、総括的な評価では対応できない。カリキュラムのマネジメントと新観点別評価への対応を期待したい。 <p>【第2回】令和3年12月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営についてコロナ禍の中でなかなか充実した活動をしており、感心する。 ⇒コロナによる制約が多いものの、殆ど休校なく授業が途切れずに出来たことが良かった。元気な挨拶をする生徒が増えた。廊下を歩いている、挨拶を良くする。講師の先生方から「生徒が明るい。」と言われることが多い。 ○毎朝、出勤時に学校付近を通る。様々な学校の生徒を見るが、時々自転車で乗車しながらスマホを見ているのを目にする。牧野高校の制服の生徒はほぼそういうのを見ることがない。「ちゃんとしているな」と感じている。挨拶にしても、校風として受け継がれていることは良いこと。今後も続いていってほしい。 ○コロナの影響で急速に状況の変化があり、ICTが整備され始めたところではあるが、例えばオンラインで40人の顔を映して授業等するのは通信速度的には問題ないのか。かなり厳しいと思うが？ ⇒枚方市立第三中学校のオンライン授業を見学させていただいたが、枚方三中では全クラスで欠席生徒の顔を画面に映しながら授業ができる。枚方市はLTE契約で、枚方市がコストをかけて教員と生徒の端末が場所を選ばずネット環境が整う。大阪府立高校はWifi利用が前提で、全クラスの生徒と一斉に通信するのは不可能。家庭にWifi環境があったとしても学校側の環境に制約がある。当初に比べると、随分と環境が整備されたものの、ご指摘の環境にはまだない。

府立牧野高等学校

- ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定回答は最近5年間で 87%⇒82%⇒84%⇒87%⇒90%となり、このうち「よくあてはまる」は 29%⇒29%⇒30%⇒37%⇒46%で、大きく伸張した。
- ・「牧野高校は人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答は最近5年間で 85%⇒82%⇒87%⇒86%⇒86%で、このうち「よくあてはまる」は 20%⇒20%⇒24%⇒23%⇒25%だった。
- ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答は、最近5年間で 85%⇒85%⇒77%⇒81%⇒90%となり、このうち「よくあてはまる」は最近5年間で 10%⇒22%⇒17%⇒23%⇒34%であった。
- ・教員では、「教職員間の十分な相互理解に基づいて教育活動が行われている」への肯定的な回答が最近5年間で 56%⇒48%⇒46%⇒65%⇒78%、このうち「よくあてはまる」は最近5年間で 8%⇒4%⇒9%⇒13%⇒20%だった。
- ・教員の「教育活動全般について生徒や保護者の期待によく応えている」に対する肯定的な回答は、最近5年間で 71%⇒82%⇒72%⇒77%⇒92%と 21ポイント増となり、このうち「よくあてはまる」は最近5年間で 13%⇒10%⇒12%⇒19%⇒32%で伸張した。
- ・「牧野高校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」への肯定的な回答も、導入以来4年間で 69%⇒67%⇒74%⇒88%、このうち「よくあてはまる」は4年間で 16%⇒16%⇒35%⇒38%と大きく増えた。

- 授業アンケートの数値が全教員平均で「3.37」は非常に高い。満点が4ということを見ると、今後さらにこの数値を向上させるというより、何か別の指標を設ける必要がある。これ以上数値を上げるのは至難の業であろうと思う。
- 来年4月から民法で定める成年年齢が18歳に引き下げられることで、権利や義務の指導等については、高校在学中に行う必要が出てくる。私が、日本司法センター弁護士会「ほうてらす」大阪事務所の所長をしている関係で、「18歳から青年に」という冊子を本日ご参考に持参した。大阪弁護士会の法教育委員会から学校に向き18歳成人に関わるお手伝いをしている。弁護士会にご相談されてはどうか？⇒先日、現3年生に来年4月から民法の成年年齢18歳に引き下げのお話を司法書士の方からしてもらっている。来年の「総合的な探究の時間」においては、新3年生もそのことに取り組む予定である。弁護士にお話をお願いできるのは有難い。
- 最近、枚方市内で中学生の自転車が事故を起こして相手が亡くなっている。本日、来校時に狭い道幅の道路で、牧野高校生が背後からくる車両に気づき、道を譲っている場面を見かけた。牧高生はすごいと感心した。先生方も指導してくださっているのだと感じた。
- ⇒牧野高校の生徒も自転車の事故が無い訳ではないが、昔に比べると、随分と苦情が減った。生活指導の教員の指導方法も変わってきており、カウンセリングマインドを持って生徒を指導するという目標が出来てきていると思う。
- 新型コロナでオープンキャンパスに行けない3年生に対し、学校が大学別説明会をしていただき、良い機会をもらった。総合的な探究の時間において、授業以外の「生きていく力」「自分から考えること」の時間が持てるということは良いことだと思う。枚方市長への提言は実現してもらえると良い経験になる。
- 市長への提言は良い活動である。続けてやってもらえれば良いと思う。
- ⇒昨年度、今年度と2年連続で行っており、今後も「牧野高校版の探究活動」として継続的に行っていきたい。
- ぜひとも続けていただきたい。生徒の意識が変わってくると思う。
- 探究の時間というのは、教科横断的という横の部分と学年の縦断的な部分が連携すれば非常に面白いものが出来ると感じる。
- 部活動加入率も新型コロナで心配したが、1年生の数字を聞いて安心した。
- ⇒もともと部活動をしたという生徒が牧野に来ていてと改めて感じている。
- ICTを活用していくことを脳科学的に分析していくと、瞬発的な力はあるが、定着させる力が疎かになるといわれている。スマホ等を使っている子供たちの脳を見てみると思考停止状態にされているようだ。思考力が落ちてしまう心配がある。ICTをどのように教育的に活用させるのか、見えてくれば良いと思う。
- 私の事業者で働く牧野高校の卒業生から先日「もっと本を読みたい。表現力がないことに気づいた。どんな本が良いか。」と聞かれた。
- ICTに対抗して思考力をつけるには読書が一番良い方法と言われる。それも電子書籍ではなく紙の本が良い。紙を触りページをめくりながら読むのが良い。
- ⇒本校は本当に図書室が充実している。昨日、放課後に図書室に立ち寄ると、校長に本の借り方を尋ねてくる生徒がいた。上靴の線の色で1年生と分かった。期末考査終了後直後に、初めて図書室で本を借りようとしている生徒がいた。放課後の図書室には他にも何人かの生徒が居て嬉しかった。本校の図書室はPTAの協力もあり、定期的に新たな本が購入出来て、本が充実している。図書室担当の先生も朝7時から図書室を開けて利用できるようにしてくれている。先ほどのお話を参考に生徒に紙の本で読書をするように話しをする。
- 同じ学校を預かる身として牧野高校を参考にさせてもらおう。ICTの見学に枚方三中来ていただいたが、枚方市は全国的に見ても通信環境がトップクラスの自治体である。校内でWifiが整っているところはもちろんのこと、Wifiが飛ばない所ではLTE4Gが利用でき、どこでも通信可能である。本校でも「タブレットを使っていれば良い」といったようなタブレット使用ありきにならないように話しているところである。端末機はあくまでも学習ツールの一つ。今までやってきたものの一部を置き換えるだけで授業は昔から変わらないものと伝えている。教員も新しい道具が入ったことによって思わぬ方向に行かないようにすることについてはすごく難しい。幼少からICTの利用に慣れている子供たちは、ICTを使って何かを作り出すのは上手である。プレゼンテーションも上手に出来る。そういう力は高校でも伸ばしてもらいたい。よろしくお祈りします。

【第3回】令和4年2月16日

- きちんと目標を設定されて、その実現のために、校長先生含め総力をあげて取り組んでおられる成果が出てきている。そういう意味で牧野方式と言える素晴らしいもの。感心する。
- やはりコロナが気になる。「休校します」という連絡が入ってもその日の夕方には「再開します」と連絡が入る。先生方が学校を休業しないために頑張っておられると感じている。夏休みや休日に授業をすることがなく生徒も喜んでいる。「総合的な探究の時間」が勉強だけでなく将来につながるの非常に良い。学校に出入りする業者に知り合いがいるが「制服が変わり、生徒がまじめになった」と聞く。身近でも感じている。カウンセリングマインドの指導ということで先生方の数値が非常に高く、自信をもって指導されているのが分かる。保護者としても安心して子どもを任せることが出来る。保護者にもアンケートがあるが、設問によっては学校の様子が分からないので答えられないものがある。
- ⇒保護者から多くの同じご意見を頂いており「今年はコロナで全然学校に行けてないので、わかりません」という意見が多かった。体育祭など、保護者の方に学校に来て頂いて生徒を見る機会が多くあれば良いが、この2年はコロナでそれが出来ない。2年前までは保護者のアンケート結果を指標にしていたこともあるが、今年度はこの状況で保護者のアンケートの数値を分析するには無理がある。コロナが収束し、正常化した時には保護者のアンケートを目標に入れたい。
- 最初にコロナのことをご紹介いただいたが、これだけ休業が少ないというのは、生徒ひとりひとりの自己管理能力の高さ。良い子どもが入ってきているということだけではなく校風が日常生活まで影響を及ぼしているのではないかと感じる。感心したのは枚方市との探究の時間。高校生がコミュニティと関わっていく良い機会を作っている。1年生は1年なりの様々なテーマを設定されており、先生方の指導力が高く、専門性以外の部分でも教育的成果を出されている。
- 令和3年度の学校評価の枠組みとは外れるが、5年間を測定できる数値化をして、PDCAで改善している非常に良い仕組み。かなり高いレベルにあるので次は維持していくフェーズに入っている。気になるところとして、ネットの中であまり良い評価でない書き込みがあげられている。参考にされてはどうか。
- ⇒ネットの書き込みも時々見るようにしている。厳しいことを書いていることも承知している。生徒は、旧態依然とした指導を嫌がる。新しい時代の指導を学校側もしっかり理解し、対応や導入していく必要がある。生徒にそのような意見があると

府立牧野高等学校

- いうことを理解したうえで大事にしたい。時代が変わっていているということを我々が理解しなといけない。
- 質問だが、枚方市との取組みで、市へ何か宿題を出したりしているのか。
- ⇒今回8つのテーマに対し、市長からのコメントがあった。「恋愛マッチングアプリ」みたいなものは考えていかれる模様である。枚方市には道の駅がないので農産物や枚方の「くわんか」などの名物を広く周知したいというのに質問が色々出ていた。信号のない横断歩道で止まらない車が多いことに関し、一旦停止した車にポイントを付与するという案は枚方市も一緒に考えている。それらの取組のいくつかを、損保会社のコンペに対し、応募を枚方市が行った。市の方も牧高生の発想を喜んで前向きに考えていただいている。「牧野高校型の探究」として続いていければよいと思う。
- 市もしっかりフォローしてほしい。
- ネットの様々な調査の中に「大阪府内の住みやすさ」の調査があり、3位豊中市、2位高槻市、1位枚方市であった。地元の住みやすさに貢献して頂ければ良い取り組みになる。今回の学校教育自己診断アンケートは、紙ベースから、ICTによるアンケートに変え、回収率が向上したとのこと。ICTの活用による教育で最も効果があるのは「即時フィードバック」というデータが出ている。生徒の質問に対して即時に色んな形でフィードバックが行われるのが進みつつあることも実感として伺われる。
- 令和3年度から引き続き「カウンセリングマインド」という言葉が使われていた。「カウンセリングマインド」というのは必ずしも進路・キャリアだけでなく生徒指導や学習指導においても有効である。一人ひとりの生徒と向き合ってまずは聴く事からということで、非常に有効な概念である。そういうアプローチが先生方の意識も変えてきている。
- デジタル社会にICTの活用は大事なことである。さらに充実させて欲しい。使い方も合わせて教えていかなければならないだろう。
- 人権教育は非常に大切である。単に学力を上げるだけではなく、社会人としてしっかり自立してやっていけるように育てて欲しい。自他ともに大切にできる人に磨いて欲しい。いじめの問題もまさにそうである。
- 成人年齢の引き下げに対する事業を意識して進めていただけたら良いと思う。弁護士会にも話をしている。要望があれば協力したい。
- ⇒来年度の第3学年の担当には弁護士会のことを伝えている。現在、来年度の年度計画を作成している。お願いにあがるかもしれないので、よろしく願います。
- 人権について、多様性やダイバーシティ等が課題にされているが、ジェンダーだけの問題ではなく、多様な生き方の指導など、重要な観点である。
- 牧野高校に同窓会はあるのか。
- ⇒5年前までは1期生の会長が一人で40年以上会長をしていて、卒業した年の卒業生のみが5月に集まるだけだった。組織化していなかった。1～3期生が3年前から動き出し、徐々に組織化した。昨年11月に同窓会で「牧友会コンサート」を枚方芸術センター小ホールを借りて実施した。本校の吹奏楽部も参加した。本校の教職員にも今年度牧野高校卒業生が3名着任した。全部で5名の卒業生が現在牧野高校に教員として勤務している。組織化が進んでいるので、3年後の50周年に向けて活動が活発化することが期待できる。
- 同窓会は非常に大事である。社会の中で活躍している先輩から学ぶことが出来る。牧野高校でも社会の各方面で活躍されている方もおられるので、人と人の結びつきを大事にしていきたい。
- 校長先生が来られてから1年生から国公立大学の説明会を行ったり、勉強だけでなく部活動を頑張ることや文化祭など先生と生徒が盛り上がり「牧高の生活を楽しむ」ことを大事にされて、進路も視野が広がるようになった。「総合的な探究の時間」においても、勉強だけでなくさまざまな活動を通して指導していただいている。子どもは「牧野に入って良かった」と言っている。
- 校舎西側の垂れ幕は何か。
- ⇒今年度の3年生の卒業記念品で作ってもらった。現在は、学校のキャッチコピーである「君の未来を創ろう」の文字を掲げている。3年生には最後の体育祭をやらせてあげたかったなど今でも思うことはあるが、コロナの制約が厳しくある中で、何とか充実した高校3年間を過ごしてもらえたのではないかなと思う。
- 今年度は教育実習生に進学の時の体験談をしてもらったが、牧野高校の先輩の生の話が聞けて、とても評判が良かった。来年度はもっと多方面で卒業した先輩たちを呼んで話をしてもらおう機会を作りたいと考えている。
- 令和4年度に関しては様々な目標の上方修正は喜ばしいこと。ただし上方修正しても上限に行きついており、これ以上、上に目標設定するのは無理な印象がある。リクエストでも要望でもないが「よく当てはまる」と「当てはまる」を足した「肯定的な意見」ではなく、「よく当てはまる」だけの数値を見るようにする項目を設定してみても良いのではないかな。
- 前向きな生徒が多く良い学校である。これを維持していけるよう頑張してほしい。
- 良い学校だとつくづく思う。クラブをやりながら勉強も頑張る文武両道の学校である。先生方が生徒たちをまっすぐ育てて欲しい。相談があれば自信を持って牧高を勧める。
- 1年間の取組みが良く分かった。PTA役員の皆さんもとても熱心な方が多い。PTAにできることがあれば協力させていただく。
- 多くの府立学校を知っているが、とても安心して見られる学校だと思っている。

府立牧野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R3年度値】	自己評価
1. 新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善	(1) 「確かな学力」の育成と授業改善 ア 『授業力改善委員会』による持続的な授業改善の推進 イ ICTを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの準備	(1) 新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそのため授業改善を進める。 ア 『授業力改善委員会』で持続的な授業改善を推進する。 イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。 ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。 エ 新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶う新たなカリキュラムを準備し、令和4年度から学年進行で実施できるようにする。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を79%以上にする【78%】。 イ・ICT活用する授業を実施する教員と、生徒の実感を何れも93%以上にする【各93%、91%】。 ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を54%以上に【53%】、『できていない』を7%以下にする【8%】。 エ・新学習指導要領対応の新カリキュラムを準備完了する。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は84%になった。最近5年間では69%⇒76%⇒77%⇒78%⇒84%で、うち「よくあてはまる」が9%⇒15%⇒16%⇒19%⇒24%と何れも15ポイント改善した。(◎) イ・ICT活用する授業を実施する教員と、生徒の実感は各92%、91%と前年同水準ながら、「よくあてはまる」が教員で43%⇒62%、生徒は47%⇒53%と伸び、達成水準と考える。(○) ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」は3年生67%、2年生65%ながら1年生33%で、56%になった。(◎) ・『できていない』は3年生6%、2年生5%ながら1年生が16%で、平均9%に増えた。今年度の1年生の課題が多い模様である(△) エ・『新教育課程対応推進委員会』で精緻に検討し、国公立理系希望者等、生徒の進路希望に合う新教育課程用カリキュラムが完成し、新観点別授業評価も全教科で準備完了できた。(○)
2. ICT活用授業の推進とGIGAスクール構想対応	(1) コロナ感染者等の学習補完とGIGAスクール推進 ア コロナ感染者等学習補完 イ GIGAスクール構想推進	(1) ICT機能活用で学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。 ア ICT機能を活用して学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を充実する。 イ 1人1台端末の導入に対応し、校内のハード(電子黒板との連携)、ソフト(教員研修)両面でのICT活用推進を図る。	ア・『ICT、GIGAスクール対応推進委員会』を発足させ、学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を実施可能にする。 イ・1人1台端末導入に対応、電子黒板と連携する教員研修を2回以上実施する。	ア・グループウェアやオンライン予備校サービスを利用して、学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完が可能になっている。(○) イ・1人1台端末導入に対応する行内教員研修を、全体研修3回、少人数研修3回の合計6回行い、全教員がグループウェアや電子黒板を利用して生徒と双方向で授業での学習指示や質疑応答、探究活動等で活用できるようになった。(◎)
3. コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現	(1) 多様性、共生の意識醸成 ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者の人権意識醸成の機会を作っていく (2) 生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを持続しつつコロナ下での行事等見直し イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実 ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の3要素の養成 エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望の進路実現させるための進路指導体制の充実	(1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。 ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認め合い共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。 (2) コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。 ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直しをしていく。 イ コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。 ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素(①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度)を養う。 エ 入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて、生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。	(1) ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を88%以上にする【87%】。 ・「牧野高校は人権教育に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を87%以上にする【86%】。 (2) ア・行事等の見直し実施。 ・「部活動は活発である」生徒肯定回答90%以上を維持する【93%】。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答を74%以上をめぐす【73%】。 イ・進路講演会、イベント実施 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の肯定回答を81%以上にする【80%】。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定回答90%以上にする【89%】。 ウ・「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。 エ・定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を測る。 ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上【70%】に、そのうち5教科型の出願者を50%以上【32%】にする。 ・国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の20%以上【12%】、そのうち現役合格者数を卒業見込み者数の5%以上【2%】にする。 ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者が卒業生数の50%以上になるようにする。【60%】	(1) ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定回答は90%となった(○) ・「牧野高校は人権教育に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答は86%であったが、保護者はコロナ禍で学校に行く機会がなく不明との回答も多く、全体では概ね達成と考える。(○) ・1年生は多文化共生、「いのち」、アニメ「めぐみ」鑑賞、同和問題の4回の学習、2年生は性的マイノリティと多文化共生の2回の人権学習、3年生は面接時等の人権、デートDV、18歳成年の3回の学習を行った。教職員は同和問題と初のPTA合同による育児に係る研修を実施した。(◎) (2) ア・新型コロナの緊急事態宣言等で体育祭は中止せざるを得なかったが、文化祭は平日2日無観客開催を基本に3年生の保護者に限り自クラスの演劇時のみ入場で行った結果、「牧野高校は楽しい」の生徒の肯定回答は91%、「文化祭の実施方法は適切であった」の生徒の肯定回答は89%(1年生95%、2年生94%)だった。(◎) ・「部活動は活発である」生徒肯定回答は94%(○)で、「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答は77%に向上した(◎)。 イ・外部講師講演会や各種研修会等を実施の結果、「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定回答は85%(◎)になり、「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は90%になった。(○) ウ・「総合的な探究の時間」の中で3年生は新たにディベートを実践。2年生は枚方市長来校の下で8チームが「市長への提言」を行い市長から質疑応答や講評をもらった。1年生はグループウェアを使いながら20のテーマから好きな研究をするなど、独自で多様な研究手法で行った。(◎) エ・全国比較できる外部模試を進路指導部の主導で校内実施する形が初めて実践、定着し、教員や生徒に対して結果分析説明会も行われ、生徒の学習到達度等が定期的に測れるようになった。(◎) ・大学入学共通テストの出願者数は74%で、うち5教科7科目での出願者数は29%であった。(△) ・国公立大学の現役受験者数は卒業見込者の16%(51名)、現役合格者数は7%(22名)となった。(○) ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者は、卒業生数の72%だった。(◎)

府立牧野高等学校

<p>4. 新型コロナウイルス併存下における教職員の長時間勤務の削減</p>	<p>(1) 教職員の資質向上 ア 相談能力養成のための教職員研修充実</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の削減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を削減する。</p>	<p>(1) 新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。 ア・新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の削減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を削減する。 ・一昨年度実施した職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議等にも応用し、会議時間削減や、新たな部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化で、一層の超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等を検討する。 ・新たな実行性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務削減を図る。</p>	<p>(1) 教職員研修の充実 ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率 80%をめざす【72%】。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答 79%以上をめざす【78%】。</p> <p>(2) 教職員の長時間勤務削減 ア・会議のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を削減するとともに、新たな部活動実施指針に基づき部活動時間を圧縮、また校内行事を見直し、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数で、前年度比 3%、H29 年度比 30%の削減をめざす。【H29:37 時間 36 分、R2:26 時間 35 分】</p>	<p>(1) ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定回答率は 88%になり、当該方針を導入以来 69%⇒67%⇒74%⇒88%と伸びてきた(◎)。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」の生徒の肯定的回答は 82%になった(◎)。教員の「生徒が悩み事を相談できる教育相談体制が整備されている」への肯定的回答も、68%⇒90%と大きく改善している。 ・生徒への「いじめに関するアンケート」の年度内 2 回の実施と、アンケート結果に対する丁寧な対応をで、「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定回答は、5 年間で 80%⇒82%⇒83%⇒84%⇒87%と向上してきている。</p> <p>(2) ア・新型コロナウイルス感染症の感染防止のために 4 月から 9 月までまん延防止措置や緊急事態宣言の期間が続き、部活動や学校行事等について、ガイドライン等に従い抑制的、限定的に行った。職員会議のペーパーレス化による会議時間短縮や電子黒板利用による教材の共有化・効率化も進んだ。一方で世代交代が大きく進み、経験年数の少ない教員が増えて、ICTや1人1台端末に対応する授業研究・授業準備や、部活指導、生徒対応、保護者対応等に費やす時間が増加している。 ・また校外の超過勤務時間数の追加入力をするようになるなど管理するシステム的大幅な変更で前年度までとの比較が難しくなった。数値の比較だけすると、教職員一人あたりの超過勤務時間数は、前年度比 45%の増加、平成 29 年度比で 2%の増加となっている。(一)</p>
--	--	--	---	---